

謹賀新年

在宅医療・介護連携推進事業の本格稼働年です。今年も宜しくお願いいたします。

◇河内長野市認知症地域連携連絡会：11月20日(金)開催(於・河内長野市役所)

もの忘れ相談会、オレンジキャンペーン(RUN伴2015)、認知症サポーター養成講座、「認知症カフェ」等の活動報告。最近の施設対応や今後のイベント企画等について意見交換、意見開陳。

◎在宅医療部会兼地域連携室会議：12月16日(水)第80回・第2回開催(於・河内長野市医師会館)

「在宅サロン」や「認知症ライフサポート研修」の内容、「地域ケア会議」の議題等について協議するとともに、日々の在宅医療における課題等について意見交換。

◇大阪市との懇談(河内長野市いきいき高齢課と合同)：12月16日(水)に、①「認知症初期集中支援チーム」事業実施にあたり、現在モデル事業を行っている大阪市(福祉局高齢者施策部高齢福祉課)へ赴き、ノウハウ等の伝授を受けた。今後これを参考にして、河内長野市独自の同事業を展開する予定。

◇河内長野市との懇談等：12月9日(水)、12月21日(月)、12月25日(金)と健康長寿部の担当者と喫緊課題について話し合いを行った。12月22日(火)には、②「ブルーカードシステム」に関する懇談を、消防本部、いきいき高齢課、介護保険課、健康推進課の担当者とで行い、導入に向けて一定の理解と合意が得られた。

↑上記①、②はともに、「地域ケア会議」に設置の委員会で、詳細が協議される。参考として、次頁に「高知市医師会ブルーカードシステム」の新聞記事(高知新聞)を掲載。

□よどきり「地域包括ケア住宅オープン前セミナー」：12月10日(木)開催(於・東淀川区民ホール)

南花台と同様、大阪府「スマートエイジング・シティ構想」のモデル事業の一環。淀川キリスト教病院関連の「よどきり医療と介護のまちづくり(株)」が2階居室を賃貸し、1階の訪問看護ステーション等がサービスを提供する。1階には他に「まちな保健室」(まちカフェ・出張保健室等)が併設。

□大阪市「専門職のための認知症初期集中支援実践セミナー」：12月25日(金)開催(於・大阪国際会議場)

3区(東淀川区・城東区・東住吉区)のモデル事業の概要説明、認知症サポート医、チーム員からの実践報告の後、質疑応答等。その中で、認知症初期集中支援(オレンジ)チームの運営においては、地域資源の活用、特に医療との連携が重要で、地区医師会の協力、参画が必須との見解が示された。なお、大阪市では、平成28年度には、全24区(1区1チーム)で展開予定との報告。

☆【Topics】

○リフィル処方箋：医療機関を受診しなくても、一定期間内に反復使用できる処方箋のこと。5年前から導入の話があり、再診料削減が目論まれているが、昨年6月に閣議決定された「規制改革実施計画」で改めて提唱され、中央社会保険医療協議会でも議題に上った。導入には至っていないが、議論の主が、厚生労働省ではなく首相直轄の内閣府(規制改革会議)であり、今後目が離せない。

「高知市医師会」が病診連携システム 夜間、休日受診にブルーカード

「高知新聞」 2015(平成 27) 年3月 27 日(金)



高知市医師会が導入した「ブルーカード」

持病のある人が夜間や休日に具合が悪くなった際、かかりつけではない別の病院でスムーズに診察を受けられる病診連携システムを高知市医師会が導入した。患者はかかりつけ医が書いた紹介状(ブルーカード)を携帯し、急変時にはあらかじめ決めておいた病院を受診。患者情報を把握した上で診察できる利点があり、高知市医師会は「患者の受け入れ拒否を防ぎ、安心につなげたい」としている。

大阪市浪速区医師会が発案したシステム。患者には事前にブルーカードを渡しておき、急な受診時に活用してもらう。2009年に開始し、救急現場での受け入れ拒否が減るなど効果が出ているという。

高知市医師会では、救急患者の増加で県内の救命救急センター3施設の負担が増していることなどから病診連携システムを今月開始。高知市と土佐市の24医療機関がかかりつけ医として、13救護病院が連携病院として参加した。

かかりつけ医は「在宅」「終末期」「介護サービスを受けている」「過去に救急受診歴がある」などを基準に患者を選定。受け入れ先を1人につき2施設選び、医師会を通じて情報共有する。カードには病名や既往歴、薬やアレルギーなどが記録されており、救急搬送時は救急隊員が内容を確認した上で搬送先を選ぶ。患者情報は1年ごとに更新する。

竹村晴光会長は「急変患者を診察する際、病気や薬など最低限の情報があれば受け入れ病院の負担が減る。参加施設を増やし、医療機関の役割分担を進めていきたい」と話している。